

中村美亜先生聞きとり

【参加者】

- 工作工房でのセミナーにも参加したが、一泊すると普段は見えない他の人のいろんな面が見えてきてよかった。
- ふだんは大学生同士でいろんなことをやっている。これまで社会人の方と出会う機会がなかったのでいい体験になった。
- 仕事に戻っても、ここでの思いを大切にしたい。
- ふだんは一人でプロジェクトに取り組んでいるが、今回はいろんなジャンルの人たちが大勢で一つのことを考える面白さを体験することができた。
- 一つ一つの体験がいい刺激になった。自分が住んでいる地域でも同じような課題がある。そこでの自分の生き方にも生かせるものだったと思う。
- 純粋に楽しかった。頭も活性化した。
- 楽しく過ごすことができた。八女の事例を通して、問題点を問題でないように変えていく着想の仕方を学んだ。
- 福岡市で生まれ育ったので、地域の課題の解決を考えろと言われても上滑り感があった。今回は二日間という短い期間であったが、地域の話がしっかり聞けて充実していた。
- ふだんはシステムのことばかりやっている。システムを押しつけてもダメで、人と人とのミクロな関係からやっていくことが大切だと改めて考えた。
- 大学の授業内でやってもピンとこないことが多かったが、人生経験の豊かな人たちと、地元の人と話をしながらやれたのはよかった。
- 大橋さんの情熱や、稲刈りの作業からインスパイアされた。アイディアの水脈が見えた。
- ワークショップにはよく参加するが、上滑り感のあるものも多い中で、今回の合宿では、じっくり考えることができた。会う方が素晴らしく、皆さんが心を開いて話してくれてよかった。これは朝廣先生、小森さんの20年にわたる地域との関わりがあったが故に実現したものだと思う。長年の地道な取り組みに敬意を表したい。地元でキーになる人は大切だが、外から訪問する人も大切で、両者がチームとしてやっていくことが大事だと思う。
- 経験の搾取にならないように、頑張っていきたい。

【スタッフ】

- たくさんの人と交流できてよかった。
- それぞれの人のキャラクターが見えてきて面白かった。
- 先が見えない形で始めたが、いいスタートが切れた。ぜひアイデアを実現していきたい。
- 最初は課題を設定しないで、自由に散策する方が良いのではないかと思ったが、一泊二日というスケールでは、これくらいの方がよかった。ワクワク感を保ったままプロジェクトをやっていきたい。来年も、ぜひもう一度合宿をやりたい。
- タイトなスケジュールの中で現場体験（村入り）を入れるかどうか少し迷ったが、やはり入れてよかった。これまでもポリシーとしてやってきたが、たとえ2～3時間でも、村入りはやる価値がある。合宿のあちこちに、コーディネートが技術がふんだんに散りばめられていたことにも気づいてもらえたら嬉しい。小森の取り組みがあつてのことで、普通はなかなか心を開いてもらえない。地元の人たちとコラボしながらやっていくことの大切さを知ってもらいたい。今回の合宿では、これまでリクルートしてこなかった人たちに来てもらうことができた。次の新しいものが生まれる出発点になったと思う。
- 始まる前は「勉強してさようなら」では失礼だと思っていたが、知恵を出すことも貢献、出会うことも大切だと思った。地域に入っていくことの大切さを改めて思った。アイデアでお返ししていきたい。今回は、自分と地域の間、自分と他の人との間に、とてもいいものが流れた。合宿に参加する前よりも、みんなことを好きになっているのは良いことだ。信じて任せることの大切さを感じた。
- 企画段階ではいろいろと不安も多かったが、ほっとしている。朝廣先生、小森さんのこれまでの取り組みのおかげである。ぜひ提案されたアイデアを、これから実現していきたい。